ON4CRD

第03巻

はじめてのQSO



Radio Club Durnal ON4CRD

https://on4crd.be

法的表示

第03巻 · はじめてのQSO

ウェブサイト発行者 : Radio Club Durnal ON4CRD

出版マネージャー : Radio Club Durnal ON4CRD 委員会

https://on4crd.be

法的表示

知的財産

サイト上で公開されているテキスト、画像、文書、ロゴ、および資料は、それぞれの作成者またはクラブの所有物です。複製または再利用は、出典、該当する権利、および著者の許可を尊重する必要があります。

責任

クラブは、有益で検証された情報を公開するよう努めていますが、誤り、脱落、または中断がないことを保証するものではありません。技術情報または規制情報が決定を裏付ける場合は、公式情報源と照合する必要があります。

イラストは人工知能の支援を受けて制作しています。

大切な日



有効な運用者の資格証明を持って、Lucasはクラブへ来た。



準備した活動に使える許可のある局だ。



先生 (Simon)も同じように楽しみに迎える。



今日は初めてのQSOを目指す。



マイクを見ると胸が高鳴る。



一歩ずつ、自分のペースで進もう。

期待と疑問



たくさん聞いたが、話すのは違って感じる。



向こうから返る声を想像する。



最初の呼び出しで言葉を忘れたら？



先生は少しだけ手掛かりを用意しようと言う。



全部覚えず、ノートを開く。



誰かと出会いたい気持ちの方が強い。

条件を確かめる



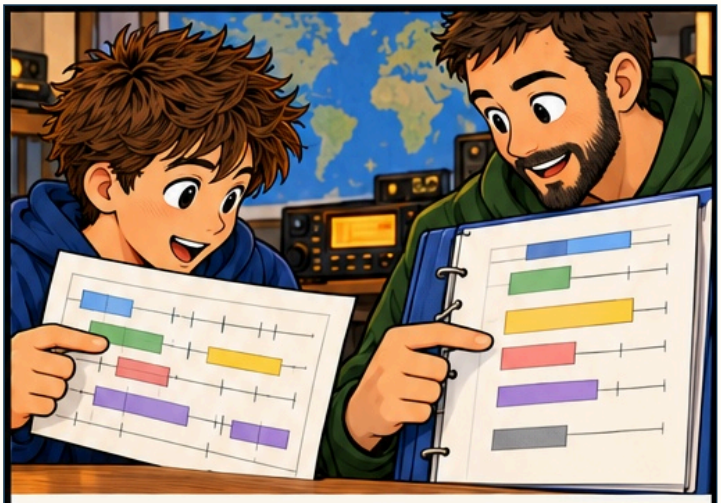
資格と局に関する条件を読み直す。



選ぶ周波数帯は、自分たちに許されている必要がある。



通信方式と出力の条件も確認する。



バンドプランも準備に加える。



疑問は送信前に公式の情報で解決する。



参加できる理由を少年は理解した。

自分のコールサイン



送信に使う識別を準備する。



確認した条件で使う、自分自身のコールサインだ。



先生の前ではっきり繰り返す。



不明な部分はつづりを伝える準備もする。



例のコールサインを自分のものと間違えない。



正しい局の識別も交信の一部になる。

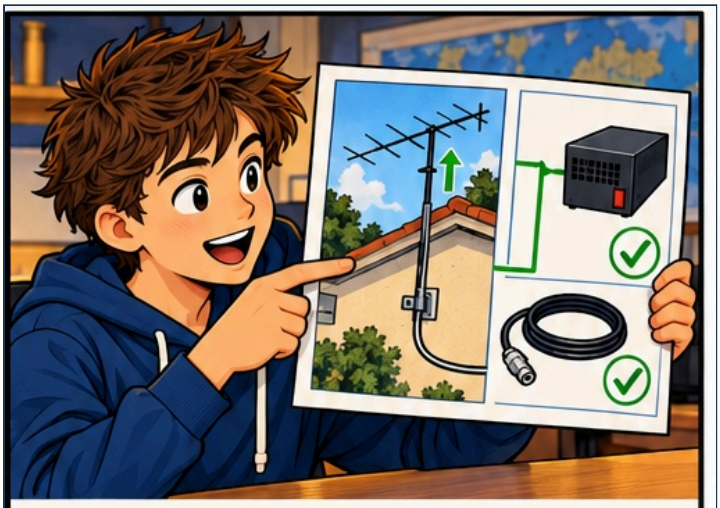
局の準備が整う



使用前の技術的な確認を済ませる。



機器は閉じたまま、説明書どおりに設置する。



アンテナと電源は準備した設備に合っている。



ノートを手の届く所へ置く。



先生が最後の項目を一緒に確かめる。



局が整ったら、まず受信だ。

聞くことから



受信機では、すでに交信が続いている。



応答し合う声を追う。



自己紹介、質問、間を聞き分ける。



先生はリズムをつかむ時間をくれる。



最初の気づきをノートへ。



自分の交信前にも、人から学べる。

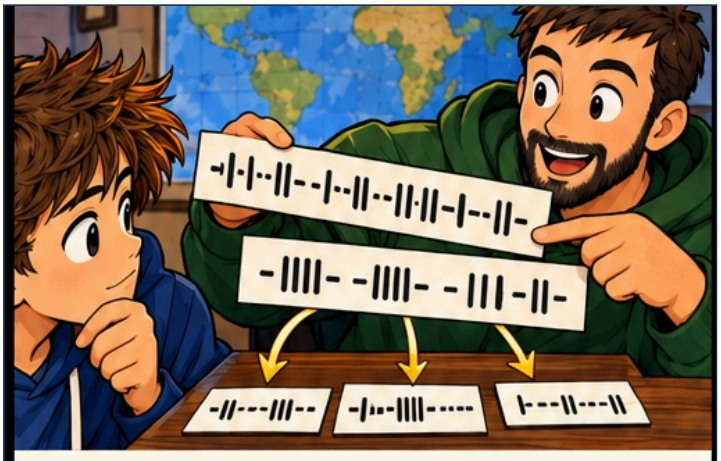
二人の会話



相手が話し終わるのを待っている。



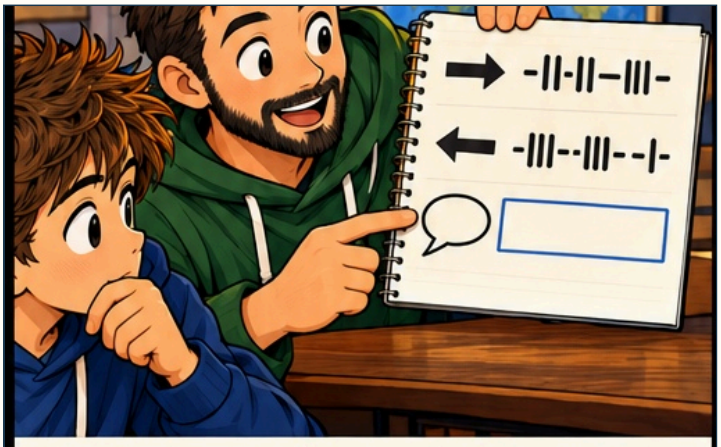
前の言葉を受けた返答も聞こえる。



交信は二つの独り言ではない。



話すだけでなく、聞く余地も残す。



先生はメモのその余白を示す。



少年は自分の役割を思い描く。

聞き返していい



受信した会話の一語を聞き逃す。



記録を埋めるために作り話はしない。



先生は、繰り返しを頼めると教える。



向き合って丁寧な頼み方を練習する。



その方法も手掛かりに加える。



分かったふりをする必要はない。

少しの手掛かり



呼び出し用の短いメモを作る。



自分の識別と目的を用意する。



そのあとに返答の余地を残す。



ほかの情報は交信の中で伝えればいい。

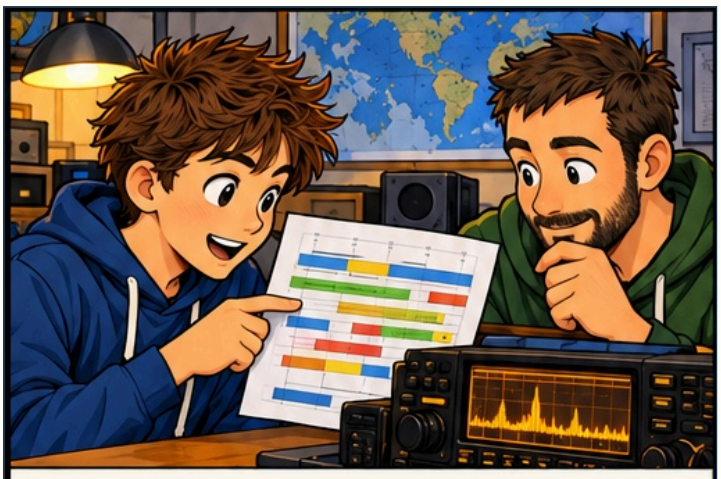


部屋で普通の声で練習する。



メモは安心をくれ、会話を縛らない。

場所を探す



活動に合う周波数帯の部分を探る。



考えた周波数は最初、静かに聞こえる。



すぐ始めたい気持ちになる。



Simonはもう少し聞こうと促す。



近くの信号を見て、耳も使う。



一瞬の印象だけでは選べない。

隠れそうな声



待つ間に弱い声がまた聞こえる。



最初は気づいていなかった。



やがて別の局が答える。



静かに見えても、その周波数は使用中だった。



交信を遮らず、そのまま聞く。

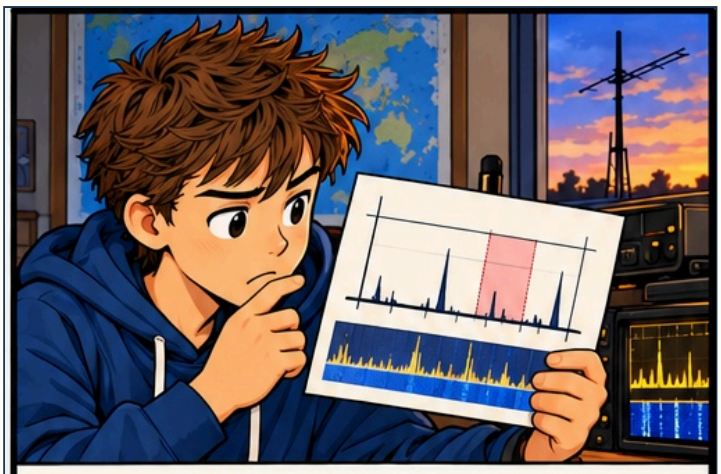


最初の忍耐の意味が分かった。

会話を続けてもらう



もう何度かやり取りを聞く。



ここでは、すでに交信が続いている。



ここで呼び出す準備はやめる。



先生はその穏やかな選択を認める。



準備の範囲で別の場所を探そう。



通信を尊重することも実践になる。

別の道へ



周波数帯の手掛かりを見直す。



別の候補の周波数を見つける。



続ける前に通信方式を確認する。



また最初から聞き始める。



場所を変えても確認は省かない。



ノートが、焦らない歩みを記す。

選ぶための時間



今度は近くの雑音が聞きづらさを生む。



推測せず、聞こえたことを言葉にする。



前の観察と比べる。



許された範囲で、理解できる交信を目指す。



でたらめに調整せず、より合う状況を探す。



初交信は、正しい準備を待ってよい。

より明瞭な受信



新しい候補は聞きやすい条件だ。



準備した範囲に合うか再確認する。



音をよりよく聞き分けられる。



必要な受信のつまみだけを調整する。



先生は、理解した操作を任せて見守る。



確かな観察から自信が育つ。

約束を準備する



先生は二人の局の間での初交信を提案する。



先生も自分の局を使う条件を満たしている。



受信し合う方法を決める。



周波数は、実際の運用状況をなお確認する。



約束があっても、ほかの利用者より優先はされない。



知っている相手と始められるのがうれしい。

それぞれの局へ



先生は自分の局へ向かう。



少年は、準備した許可のある局に残る。



資格証明を持ち、自分のコールサインを使う。



確認済みの手順がノートにそろう。



離れた所でも、相手が局を準備している。



二つの場所で、同じ交信を待つ。

手元のノート



一人になると少し緊張が戻る。



メモを見つけ、静かに息を整える。



使う識別を読み直す。



返答や予想外のことの余地もある。



ヘッドホンを着け、聞こえる音に集中する。



次の一歩も、まず聞くことから。

呼ぶ前に確認



考えた周波数を十分な時間、確かめる。



使用中か丁寧に尋ね、正しく名乗る。



送信の操作を放し、受信する。



弱い返答にも時間を残す。



確認の結果、使用中との返答はない。

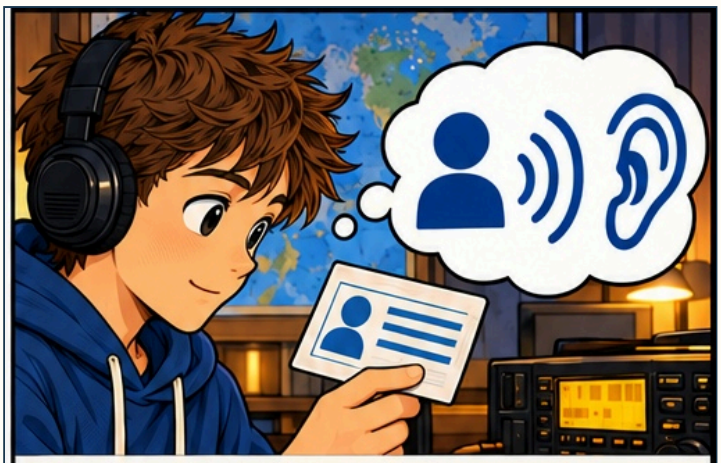


運用状況に注意しながら呼び出しを準備する。

初めての呼び出し



短く明瞭なCQを送る。



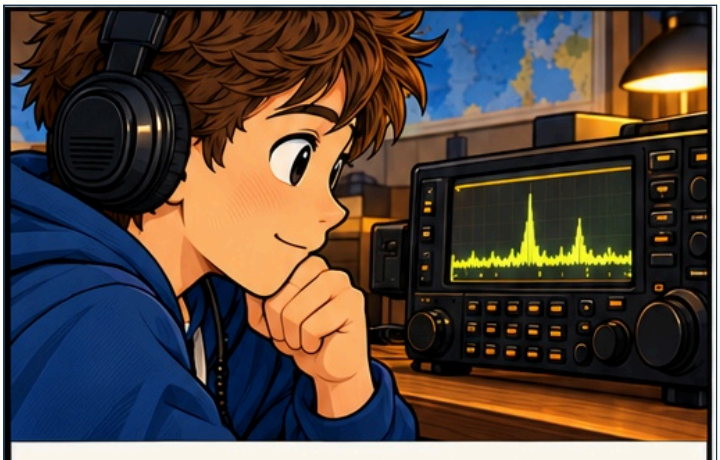
自分のコールサインを使い、受信することを伝える。



マイクは無理のない位置だ。



送信をやめて待つ。



画面を見ても、耳で聞くことが大切だ。



一歩進んだ。誰が答えるかはまだ分からない。

まだ返答はない



最初の呼び出しに聞こえる返答はない。



少し残念そうにノートを見る。



静けさだけでは全部は分からない。



相手に届かなかったのかもしれない。



周囲の運用を聞き続ける。



待つことが、失敗を意味するわけではない。

焦りに負けず



沈黙を声で埋めたくなる。



でもメモには、間を置く印がある。



受信機から状況を学ぶ。



周波数の使用状況も条件も変わりうる。



実際の観察に準備を合わせる。



忍耐が返答の場所を守る。

控えめな再挑戦



運用状況を確認して、適切にもう一度呼ぶ。



識別は明確に、言葉は短く。



安心のために複数の設定を変えたりしない。



呼び終えると、送信の操作をまた放す。



弱い信号にも気を配り、最後まで聞く。



今度は声が浮かび始めた。

誰かが答える



ヘッドホンの中で返答が形になる。



別の局で、緑の服の運用者が彼を聞いていた。



声は知っているが、まず宛先を確認する。



聞き取れた識別の部分を記録する。



相手が話し終わるのを待つ。



さっきの沈黙は、会話の始まりになった。

宛先を確かめる



返答が自分の呼び出しへのものか確かめる。



聞いた内容を自分のコールサインと比べる。



相手も自分の局を識別する。



まだ一部がはっきりしない。



推測せず、明確な質問を準備する。



返答の喜びにも注意を忘れない。

自分の番



相手のあとで話し始める。



交信に必要な識別を使う。



返答を受け取ったと伝える。



声は少し震えるが、短い一文だ。



それから受信に戻る。



二つの局がリズムを見つけ始める。

繰り返しを頼む



不明だったコールサインの部分を聞き返す。



相手は落ち着いて必要なつづりを伝える。



空欄を勝手に埋めず、一つずつ追う。



記録を残す前に確かめる。



詳しく伝えてくれたことに感謝する。



頼んだことで、交信が確かで明瞭になった。

正直なレポート



お互いの受信の様子を話す。



Lucasは実際にどれほど理解できたかを伝える。



機械的な数字ではなく、耳で聞いた報告だ。



相手も役立つ情報を返す。



今後の保証とはせず、書き留める。



条件は交信の途中でも変わりうる。

簡単に自己紹介



準備した紹介の内容を伝える。



自分の名を、分かりやすい一文で伝える。



返事を聞く時間を残す。



相手も自己紹介をする。



信号の向こうに、人との会話がある。



もう、機械だけに話す気はしない。

声の場所



相手が局のある場所を短く話す。



少年も適切な位置の手掛かりを伝える。



地球儀が、無線で結ばれた二点を思わせる。



不要な私的な座標を並べる必要はない。



思い出に役立つ情報を残す。



距離が二人の好奇心を引き出す。

近づける話題



無線への興味について言葉を交わす。



初めてのQSOだと話す。



相手は会話を急がせず、励ましてくれる。



聞く中で発見する楽しみを話す。



ノートは近くにあっても、しっかり聞く。



技術が出会いの場所を開いた。

言葉がかすむとき



次の一文の一部が雑音に消える。



ためらってから、聞き返す手掛かりを思い出す。



分からなかった所を素直に伝える。



そして相手に言い直してもらう。



進むために怒る必要はない。



小さな障害も、普通の交信の一歩になる。

追いやすい返答



相手は必要な言葉をゆっくり繰り返す。



答えは分かりやすいままだ。



聞き逃した部分をよく理解できる。



短い言葉で理解を確かめる。



二局はまた交互に話す。



丁寧さが会話を滑らかにした。

落ち着いた操作



知っている受信設定だけを確かめる。



難しさのたびに出力を上げたりしない。



普通の声で、マイクの位置も適切だ。



相手も聞きながら、表現を合わせる。



見せびらかすより、理解し合うことを選ぶ。



簡単な操作で会話が進む。

一緒に残す記録



QSLカードを送ってもよいか尋ねる。



相手も交信の記念を作ると答える。



適切な確認の方法を決める。



その約束を交信情報と一緒に記録する。



カードはやり取りした情報を確認できる。



聞くことや正確な記録の代わりにはならない。

初めての別れの言葉



初交信を締めくくる時が来た。



交信と忍耐に感謝を伝える。



伝統的な73も含め、親しい挨拶を交わす。



適用される規則に従い、もう一度識別する。



送信をやめ、受信に戻る。



初QSOには、始まりと会話と終わりがある。

最後の言葉のあと



しばらくヘッドホンを着けたままでいる。



自分の送信が終わったことを確かめる。



交信が終わると感動が込み上げる。



ノートを見て、大きく笑う。



向こうでも相手が記録を片づける。



わずかな言葉が、この日を特別にした。

ログの中の交信



記憶が新しいうちにメモを清書する。



実際に交わしたコールサインを確かめる。



日付とUTCの時刻を確認する。



周波数帯、方式、受けたレポートも加える。



学んだことも一文残す。



自分のログで経験を振り返れる。

思い出のカード



相手へのQSLカードを準備する。



絵には自分の土地と楽しみを込める。



交信のデータは正確でなければならない。



記入前に、ログを読み直す。



思い出は交信した二局のものだ。



自分らしい形にするのが楽しい。

思い出を確かめる



送る前に、各情報を最後に確認する。



一文字違えば相手の識別が変わる。



日付や方式の誤りも正確さを損なう。



本当に確かめられる所だけを直す。



不要な個人情報はカードに書かない。



きれいな見た目に、丁寧な確認を添える。

思い出が旅立つ



相手と約束した方法で送る。



記録と、あとで確認する手掛かりを残す。



確認はすぐ届かなくてもよい。



待つ間に、QSOの流れを読み返す。



役立ったことと、もっと練習したいことが見える。



交信は、その後も学びをくれる。

数日後



確認のために予定した時間のあと、クラブで会う。



緑の服の運用者が用意したカードを持ってきた。



交信した内容が分かる。



カードを保存した記録と比べる。



二つの思い出が、無線の声のように応え合う。



最初のカードには特別な場所がある。

本当に大切だったこと



Simonは初QSOで心に残ったことを尋ねる。



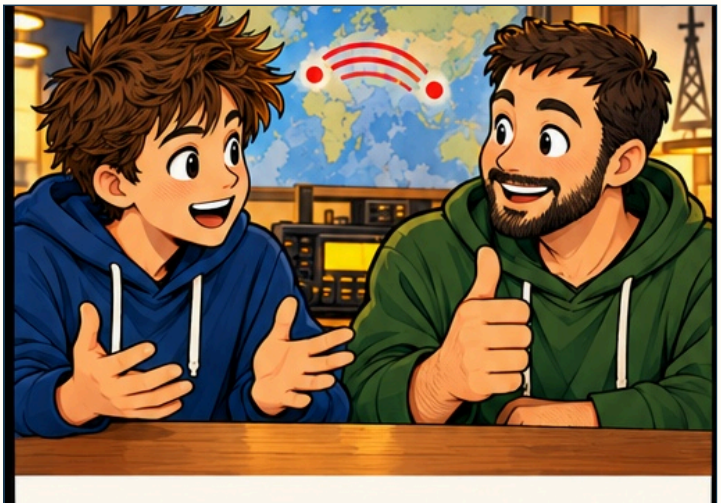
Lucasはまず、呼ぶ前に聞いたことを話す。



次は、助けになった聞き返しだ。



識別と確認が、明確な道しるべになった。



相手の辛抱強い返答が支えてくれた。



競争ではなく、確かな成長を見つける。

次の人への助け



クラブの別の初心者に向けたメモを作る。



本当に役立った手掛かりを残す。



送信には、それぞれ必要な条件があると記す。



質問やためらいの余地も残す。

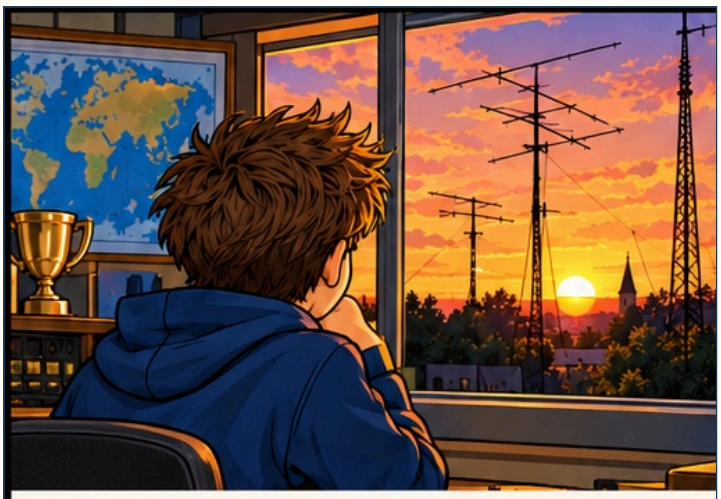


先生が一緒に全体を読み直す。



初交信が、もう人に分ける経験になる。

世界が近くなる



夕暮れ、クラブからアンテナを眺める。



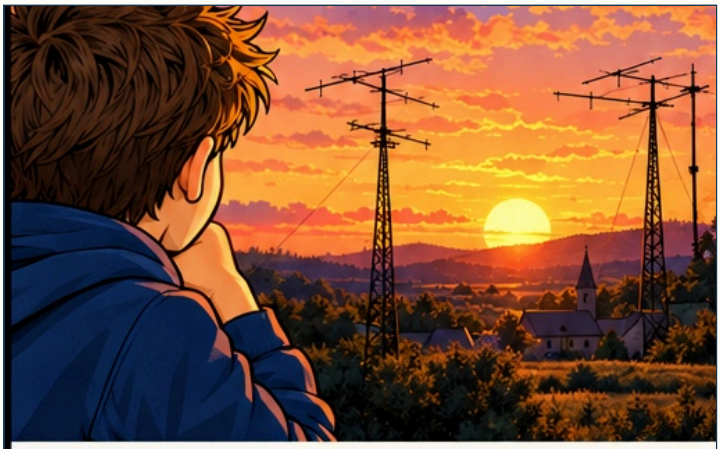
最初の返答の前の静けさを思う。



その向こうに、聞く用意のある人がいた。



ログとカードが出会いを残す。



ほかの声と、学ぶための問いが待っている。



好奇心には、本当の交信の記憶が加わった。

僕の初めてのQSO



Lucasはかつて圧倒された局を、また見る。



今は一つの声と出会いを思い出す。



次の交信にも、聞くことと確認が必要だ。



Simonは成功を奪わず、喜びを分かち合う。



大切に過ごした初QSOを、ログに閉じる。



電波、人、たくさんの発見。楽しみは続く。